

2022年5月12日

各 位

会 社 名 東京センチュリー株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 馬 場 高 一
(コード番号 8439 東証プライム市場)
問 合 せ 先 広 報 I R 部 長 山 下 圭 輔
(TEL03-5209-6710)

2023年3月期における特別損失（減損損失）の計上に関するお知らせ

当社は、連結子会社の Aviation Capital Group LLC（米国・カリフォルニア州 以下 ACG）が保有するロシアの航空会社向けリース機体を対象に、2023年3月期に特別損失（減損損失）を計上する見込みとなりましたので、下記のとおり、お知らせいたします。

記

1. 減損損失の概要

ACG は、ロシアの航空会社向けに約6億ドル（2022年3月末時点 リース機体8機、融資・融資保証の合算）のエクスポージャーを有しておりますが、リース機体8機につきましては、将来キャッシュ・フローの見積りが困難となったため、帳簿価額の全額である約460億円（約3.8億ドル ※ 1ドル120円で換算）を2023年3月期の特別損失（減損損失）に計上する見込みであります。

2. 減損損失の発生経緯

2022年2月24日から続くロシアによるウクライナ侵攻を受けて、米国、欧州連合（EU）、英国、日本およびその他の国々は、ロシアの産業・関係者等への広範な経済制裁を課しております。これらの経済制裁の中には、ロシアとの航空機および保守用部品の取引禁止などに加えて、ロシアへのリースを通じた航空機の供給も禁止されております。

ACG は当該経済制裁を遵守し、ロシアの航空会社への機体のリースを全て解除するとともに、機体の返還に向けた様々な対応を行ってまいりましたが、経済制裁への対抗措置としてロシアが、国外リース会社から賃借している国外登録の機体をロシア国内で再登録し運航することを認める法令を制定するなど、依然として解除済リース機体8機の返還の見通しが立たない状況であります。

現在もロシアとウクライナの紛争が続いている状況下、機体返還の可能性や機体および整備記録等の状況をも含めた詳細を現時点で把握し、当該リース機体8機にかかる将来キャッシュ・フローを見積もることが困難となったため、回収可能価額を0円としたものであります。

3. 今後の見通しについて

2023年3月期通期連結業績予想において、当該特別損失（減損損失）約460億円（約3.8億ドル）の計上を織り込んでおりますが、当社およびACGは、引き続き機体の返還や債権の回収等に注力してまいります。また、ACGはロシアの航空会社向けエクスポージャー約6億ドル（2022年3月末時点 リース8機、融資・融資保証の合算）に対してこれをカバーする保険を付保しており、保険会社に請求権を行使済であります。現時点で保険金回収の可能性および回収時期の見通しをつけることが困難であることから、請求済みの保険金につきましては、2023年3月期通期連結業績予想に含めておりません。

4. (ご参考) 2023年3月期通期連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前期連結業績（A） （2022年3月期）	百万円 90,519	百万円 50,290	円 銭 411.56
2023年3月期通期連結業績予想（B）	100,000	20,000	163.66
増減額（B－A）	9,480	△ 30,290	
増減率（％）	10.5％	△ 60.2％	

(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上